

様式第2号

視察研修先	岐阜県高山市	氏名	太田芳彦
視察研修項目	観光振興について		
<p><概要></p> <p>高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、周囲を長野、富山、福井、石川の4県と接している。市域は、東西に約81km、南北に約55km広がり、面積は東京都とほぼ同じ2,177.61Km²と日本一広大な市で、面積の92.1%を森林が占め、山や川、溪谷、峠などが多く、標高差も2,700mを超えるなど、地形的に大きな変化に富んでいる。北東部には槍ヶ岳、穂高連峰、乗鞍岳などの飛騨山脈（北アルプス）を擁し、高原川や宮川が北へ流れて神通川水系に、南部では御嶽山を擁し、飛騨川が北から南に流れて木曾川水系に、南西部では庄川が南から北へ流れて庄川水系にそれぞれ流れ、その源流となっている。標高の最高は奥穂高岳の3,190m、最低は神宝町吉野の436mです。</p> <p>◎観光を活用した持続可能な地域づくり方針の概要</p> <p>①観光を取り巻く状況（国の動向）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明日の日本を支える観光ビジョン」の策定（H28.3） ・「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」 ・「観光立国推進基本計画」の策定（R5.3） ・「観光地域づくり法人の登録制度に関するガイドライン」の見直し（R5.4） <p>②旅行者の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社に頼る出発地主導型から、地域が主体的・戦略的に集客や開発を行う地域主導型（着地型）観光への転換 ・団体旅行、モノ消費から個人・グループ旅行、コト消費への転換 ・観光DXの推進による、HPやSNSなどの電子媒体を活用した観光情報へのアクセシビリティの向上や個人による手軽な旅行予約への移行 <p>③観光を取り巻く課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響による観光客の激減や旅行形態の変化への対応など、持続的かつ柔軟な受け入れ体制の構築が必要 ・少子高齢化やコロナ禍の影響に伴う人材流出や事業規模の縮小により、人材不足が深刻化 ・地域の稼ぐ力を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った民間主体の組織体制の強化が必要 ・感染症や地震・大雨等に伴う自然災害発生時における、観光客への情報発信や安全・安心対策といった危機管理体制の強化が必要 ・少子高齢化やコロナ禍などの影響により、地域活動の規模が縮小し、地域住民で 			

守られてきた歴史や伝統文化、自然環境などの保護や維持が困難

- ・インバウンドの増加に伴う異なる文化や価値観を持った来訪者との共生や相互理解の醸成が必要

④高山市の強み

- ・半世紀以上にわたり取り組まれてきた誘客活動の実績や官民一体となった体制
- ・先人たちにより脈々と受け継がれてきた優れた伝統文化、景観、食文化などの財産
- ・飛騨山脈や白山、御嶽山などに囲まれた豊かな自然から生み出される清らかな水と農林畜産物、食などの資源
- ・おもてなしの心で旅行者を温かく迎え入れるなど、観光を支えてきた地域住民

<感想>

470万人を超える観光客が訪れる国際観光都市として有名なことは知っていましたが、春と秋に行われる高山祭りに観光客が押し寄せるのかなと思っていましたが、JR富山駅から高山駅までですれ違うのはほとんど外国人で、日本人との出会いは殆どなく外国に来たような感じでした。本市も高山市の観光を真似ることはできませんが、有る観光資源を活用して観光客を増やせるよう提言していきたいと思えます。

様式第2号

視察研修先	岐阜県下呂市	氏名	太田芳彦
視察研修項目	下呂市地域公共交通計画について		
<p><市の概要></p> <p>下呂市は、北に古い町並みで知られる「飛騨高山」の高山市、「世界遺産の白川郷」の白川村、南に「長良川の鶺鴒」で有名な県庁所在地の岐阜市があり、岐阜県のほぼ中央に位置しています。</p> <p>市の中央を飛騨川が南へ、西には馬瀬川が流れ、御嶽山を初め河川の両側には山並みが迫り、飛騨木曾川国定公園などが位置する自然豊かな地域です。</p> <p>飛騨川に沿って国道41号やJR高山本線が南北に通じ、横断する形で国道256号、257号が通じています。</p> <p>また、江戸時代の儒学者林羅山が、有馬・草津と並ぶ天下の三名泉と表した「下呂温泉」をはじめ、市内には通年営業の温泉としては日本一標高の高い「濁河温泉」など、豊富な温泉と豊かな自然に恵まれています。</p> <p>下呂市では、地域の人々が大切にしている習慣や食文化を守りながら、農林業と観光が結びついた国際観光都市の創造、そして市の将来像である「ふるさとを感じる森と清流、人とまちが響きあう健康と交流のまち・下呂市」の実現を目指している。</p> <p>◎計画策定の趣旨と位置づけ</p> <p>①計画策定の趣旨</p> <p>下呂市では、2018年度に下呂市地域公共交通網形成計画を策定し、「いつまでも市民の笑顔がつづく持続可能な公共交通の確保」を将来像として、市民が快適で豊かな生活を送れるよう持続性のある公共交通の構築を目指し、民間路線バス廃線の代替手段や利用者の利便性向上のため、支線交通をデマンドバス運行へ転換するなど見直しを行い、市民の移動手段の確保を行ってきた。しかしながら、人口減少に伴い公共交通の利用者の減少、地域の商店などの閉店、家からバス停まで遠い、運転手などの公共交通の担い手不足といった社会問題などにより公共交通を確保・維持するための公的負担も増加し、公共交通の維持も容易ではなくなっているため、新たな枠組みの構築を検討する必要がある。多様な移動手段で公共交通を補完するハイブリッドな交通体系を構築し、公共交通の利便性図ることを目指し、地方公共団体が交通事業者と連携して、地域の輸送資源を総動員し、「下呂市地域公共交通計画」を策定した。</p> <p>②計画の区域</p> <p>本計画の区域は、下呂市全域とする。</p> <p>③計画の期間</p> <p>期間は、2025年度から2029までの5年間とする。</p>			

地域公共交通を取り巻く環境の変化に応じて、本計画は随時見直す。

④計画の対象範囲

既存の公共交通サービスを最大限活用しつつ、福祉タクシーや福祉有償運送、ボランティア輸送と言った福祉交通、スクールバスやライドシェアなど、地域における移動手段を活用することで、ハイブリッドな交通体系の形成を目指す。

⑤計画の位置づけ

本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき策定するものです。また、下呂市第3次総合計画を上位計画として関連する諸計画との整合性を図りながら公共交通に関する基本計画を定めたものと位置づけ、本市の公共交通施策の取り組み方針を定める。

◎下呂市の現状

①下呂市の人口推移

総人口は減少を続けており、平成12年から令和2年の20年間で1万人の減少となっており、65歳以上の老年人口は増加している。

②下呂市の将来人口推計

総人口は毎年減少し続け、2040年には2万人を割り込むと推測されている。生産年齢人口も50%以下となることから、経済活動の縮小や若い世代が減少することで地域での互助が成り立たなく、社会保障が大きく増えることも懸念される。

<感想>

全国、何処に行っても、人口減少は避けて通れないと思います。下呂市さんの場合、20年間で1万人の減少なので、まだ想定内と思われた。また、輸送関係の運転手が不足しており下呂市では現在、自動車運転実証運行が開始され、令和11年から運転開始したいとお話でしたので、運転開始したら是非見てみたいと感じてきたところです。

様式第 2 号

視察研修先	岐阜県土岐市	氏名	太田芳彦
視察研修項目	土岐市地域資源活用推進計画について		
<p><概要></p> <p>岐阜県の東南部に位置し、東は瑞浪市、西は多治見市及び可児市、南は愛知県瀬戸市、豊田市、北は御嵩町に接している。</p> <p>名古屋市からは 40 km 圏にあり、鉄道では名古屋駅から約 45 分の距離となる。自動車では市内に中央自動車道と東海環状自動車道の 3 つの IC を備え、高速交通網の結節点としてアクセスが充実しています。</p> <p>市域は、東西 12.49 km 南北 16.86 km、面積は 116.16 km² で、その 7 割を丘陵地が占めている。地形は南に高く北に低く、特に南部は急峻山地となっている。中央部の丘陵地は、陶土採掘や窯業用燃料として樹木を伐採したため、昭和初期にははげ山と化していましたが、その後約 50 年にわたり治山事業が続けられ、現在は緑豊かな丘陵が取り戻された。</p> <p>市街地は、北部を横断する土岐川流域及び支流の肥田川、妻木川流域の平坦部に開け、中央丘陵を環状に取り巻くように形成されている。</p> <p>平均気温 15℃ 前後、平均湿度 70% と温和な気候であり、年間降水量は 1,500 mm 程度、夏季の降水量が多く、降雪は少なくなっている。</p> <p>◎背景・課題</p> <p>①市域の 7 割が丘陵地。自然豊かな環境と温和な気候 自然豊かで温和な気候は、市の魅力の一つ。自然を活かしたまちづくりが必要。</p> <p>②人口減少と超高齢化社会の到来 転出を抑え、転入を増やす魅力ある地域づくりが必要。</p> <p>③窯業は土岐市の特徴。1400 年の伝統は続き、やきもの生産日本一 美濃焼は、土岐市にとって産業のみならず、歴史・文化的にも重要な存在。次世代へと受け継いでいくことが求められている。</p> <p>④交通アクセスの良さ（3 つの IC や JR）年間に何百人も訪れる大型商業施設が点在 市内各地域に、人が流れていない。訪れる人々に土岐市の魅力を伝え、交流・関係人口に繋げていくことが求められている。</p> <p>⑤ふるさと納税による自治体応援 この地ならではの地域資源を見つけ出し、その魅力を伝え、土岐市の応援者を増やしていくことが求められている。</p> <p>⑥国や世間の動向</p>			

- ・地域活性の切り札は地域資源の活用
- ・地域資源を活かした地域の競争力の強化

●組織機構改革による

地域資源活用推進室（現：地域資源活用推進課）の誕生

◎ヒアリング・ワークショップから見えたこと

- ①土岐市の魅力を、次世代や土岐市に関わる人々に伝えていくことや、市民の郷土愛を育み、シビックプライドを醸成していくことが重要
- ②市街の人にも土岐市の魅力を感じてもらい、土岐市に関わる人を増やして地域活性化につなげていくことが必要
- ③市民や土岐市に関わる人々が魅力に感じている地域資源を活かしながら、土岐市に関わる人々が積極的に参加するプロジェクトを進めることが重要

◎今後の展望

計画策定 3年目に向けて：にぎわいや活地域の実現に向け、3つのプロジェクト「伝える」「育む」「訪れる」の各事業の遂行

<感想>

土岐市は窯業が盛んで、生産量が日本一の市でしたが本市と同じ様に後継者不足で悩んでいるとのことで、どこも同じかなと思いましたが、ただ土岐市さんは近隣に名古屋市があり40km圏内ということで恵まれた地域で本市とはちょっと違った市なのかなと感じてきましたが、地域資源を活かすことは大切な事ですので今回学んだことを本市にも活かせるようにしていきたいと思います。